

## R元年度 放課後等デイサービス自己評価表(事業所用)

		チェック項目	取り組み状況・改善目標
環境・ 体制整備	1	事業所は、子どもの活動等のスペースが 確保されていますか	活動スペース・静養スペースが確保できている。状況に応じて使い分けている。
	2	職員の配置数は適切ですか	利用児の特性に応じて、職員を設置している。外出時などは危険の無いよう、職員を増やして対応している。
	3	事業所の設備等は、スロープやバリアフリー化の配慮が適切になされていますか	この度、老朽化に伴う事業所の建て直しを行ったことで、バリアフリーの配慮がより適切になった。
業務改善	4	子どもと保護者のニーズや課題が「担当者会議」より反映された上で、個別支援計画が作成されていますか	利用児の今後の課題を担当者会議などで他事業所やご家庭と共有しつつ、職員間で話し合いの場をもち、個別支援計画に反映するよう努めている。
	5	保護者向け評価表を活用する等によりアンケートを実施して保護者の意向を把握し、業務改善に繋げているか	保護者からのアンケートによる詳細に基づき、業務の改善に生かしている。 今後は、投書箱や回収するときの配慮(封筒に入れての提出等)を行い、より忌憚のない意見が出やすいよう工夫する
	6	この自己評価の結果を事業所の会報やホームページで公表されているか	毎年、公表している。
	7	自己評価や保護者向け評価表を業務改善につなげているか	アンケート結果を職員間で話し合い、改善につながるようにしている。
	8	職員の資質の向上のために、研修の機会を確保しているか	今年度は外部講師を招いての研修も行っており、さらに県主催の研修には可能な限り参加するようにしている。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、保護者のニーズや子どもの課題を分析し、相談支援計画書を元に個別支援計画書を作成しているか	設問の通りの手順で検証を行い、個別支援計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化された「社会生活能力検査(SM)チェックリスト」を心理士の判断の基に使用しているか	心理士の同席・指導のもとチェックリストを作成し、利用児の現在の成長域を把握し支援につなげている。
	11	活動プログラムは、子どもの支援に応じ職員会議にてチームで工夫されているか	会議を月1回行い、チームで意見を出しながら作成するようにしている。
	12	活動プログラムは、近くのお店での買い物や神社・公園など地域との関わりを視野に入れ工夫されているか	散歩やお菓子の買い物など地域の人とあいさつをしたり、公園で遊ぶことにより交流できるよう配慮している。
	13	(土)・平日・長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援しているか	利用児の状況・特性に応じ教材の工夫を行い、個別支援・集団活動を組み合わせ計画を作成している。
	14	子どもの状況に応じ、個別活動・集団活動を組み合わせた放デイ計画を作成しているか	共通の活動や材料は準備しつつ、個の状況に沿って自分で書かせたりパーツを使ったり枠の大きさを変えたりした変化をつけながら支援を行っている。個の発想も認めつつ、広げられる支援を心掛けている。
	15	支援開始前には職員間で打ち合わせをして、その日行われる支援内容や役割分担の確認ができているか	利用児の迎えまでに打ち合わせを行い、役割分担はできている。今後は支援について掘り下げていきたい。
	16	支援終了後には、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点などを共有しているか	送迎時間やパートの勤務時間のずれがあり、必ずできているとは限らない為、申し送り帳を作成し職員間の周知を図っている。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか	当日の状況により、担当の児童に関われない事があり記録が書けない事もある。その日関わっていた職員と連携を取り、記録していく。	

	18	半年毎にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しを行っているか	常勤・パート・心理士を交え、きちんと見直しの会議を半年ごとに行っている。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を組み合わせて支援しているか	放課後等デイサービスガイドライン総則を把握していない新規職員もいたため、その後より周知に努めている。
関係機関や保護者との連携	20	相談支援事業所の担当者会議に、その子どもの状況に精通してふさわしい職員が参画しているか	児童発達管理責任者、もしくはそれに準ずる常勤職員が出席するようにしている。
	21	学校との情報共有や保護者との下校時間の確認など、連絡調整を適切に行っているか	月の予約表などで連絡調整を行い、把握できるようにしている。
	22	医療ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医や学校などと連絡体制を整えているか	学校や保護者とは毎回連絡体制を整えている。主治医とは最初に基本的な事項について確認を行ったのみである。
	23	就学前に利用していた保育所や児童発達支援事業所や親からの情報提供などで、情報共有と相互理解に努めているか	保護者に共通理解の確認を取り、可能な限り情報収集を行い支援に繋げている。
	24	学校を卒業し、放デイから福祉事業所へ移行する場合、学校や相談支援事業所を通し、支援内容などの情報を提供するなどしているか	今回、当放デイを卒業し当法人に移行する事例があった。保護者や法人責任者を交えた就労移行支援会議を行い、支援内容の共通理解を図った。今後も機会があれば実施したい。
	25	児童発達支援センターや相談支援事業所などの専門機関と連携し助言(SVの派遣)や研修を受けているか	心理士やSVを招いて助言、研修を受けている。
	26	放課後児童クラブ等、障がいがない子どもとの交流や活動する機会はあるか	毎日1名は、知らない人・場所が苦手な子どもがいるので実施が難しい。
	27	地域自立支援協議会の講演会や担当者会議などに積極的に参加しているか	可能な限り参加している。
	28	日々子どもの状況を保護者と伝え合ったり、担当者会議で上がった子どもの発達の状況や課題について、共通理解を持っているか	月に一度職員の支援会議を開き、担当者会議の報告や個別支援会議の共通理解を行っている。
	29	保護者の対応力の向上を図るために、保護者にペアレントトレーニング等の研修を伝える支援に努めているか	保護者へパンフレットを配布したり、情報の頒布はしている。
保護者への説明	30	運営規定、支援の内容、利用者負担等について、契約時や面談等で丁寧な説明を行っているか	契約時に読み合わせを行い、きちんと説明をしている。
	31	送迎時等を通して、子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達や課題について共通理解を持っているか	その日あったこと・できたことを送迎時に伝えている。場合によっては、利用児の相談などがあれば当日、もしくは後日時間のある時に受けている。
	32	施設には、臨床心理士を(週1)配置し、療育に関する親の相談ができ、発達に応じた支援の工夫がなされていると思うか	心理士に週1回来ていただき、相談できる機会を設けて支援力を上げる努力をしている。
	33	施設には「保護者会」はないが、保護者同士の連携を支援するために保護者会を立ち上げた方が良いと思うか	・何力所かのデイを利用しているご家庭が多く、保護者がそれほど希望されなかった。 ・保護者が希望するなら立ち上げた方が良い。
	34	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備し、速やかに説明かつ適切に対応しているか	常勤職員が適切に対応している。送迎時にその都度コミュニケーションをとって小さな疑問には対応しているためか、苦情は今のところ出ていない。なお、法人としてサービス向上相談委員会を設置し、苦情等に対する相談体制も設

	35	定期的に会報を発行したり、「利用予定表」「活動プログラム」などを配布し、子どもや保護者に情報伝達の発信をしているか	毎月、活動予定表などは配布するようにしている。会報までは行き届いていない。
	36	個人情報に十分注意しているか	十分注意している
	37	事業所の行事に地域住民を招するなど、地域に開かれた事業運営を行っているか	法人全体としての呼びかけは行っているが、放デイだけでいえば中々招致できる行事が少ない。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、学校や当法人に準じて対応しているが良いか	法人用マニュアルを作成し夏には避難訓練を行った。全体の会議で周知に努めている。
	39	当法人の成人と長期休暇中に年2回「避難訓練」を行っているが、その他の訓練も必要か	不審者の訓練が必要だと思う。必要であれば、消防署などに研修の依頼を行う。
	40	虐待を防止するため、職員の研修会を行っているか	毎年、研修会を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に説明し了解を得ているか	講師を招いて、身体拘束の在り方を学んだ。利用児に許可を取ることは難しいが、保護者に承諾書を頂き適切な対応ができるよう努力している。
	42	食物アレルギーがある子どもについて、事前に保護者にアンケートなどを取り、対応しているか	契約時に情報を収集し、反映している。
	43	「ヒヤリハット」綴りを作成して事業所内で共有しているか	職員間で会議を行った。